

11月25日正午必着

明石春浦先生書

遠上寒山石徑斜
白雲生處有人家
停車坐愛楓林晚
霜葉紅於二月花

杜牧詩

とおくかんざんのほればせけいなめなり
遠上寒山石徑斜
くるまをとめてそとにあすふりのくれ
停車坐愛楓林晚

はくうんしやうするころじんかあり
白雲生處有人家
霜葉紅於二月花
(杜牧)

ひっそりとした山をはるかにのぼって行くと、石ころ道が斜めに続いている。白雲のわいてくるようなこの山奥に、ふと見れば家がある。(いかなる人が住むのであろうか)車をとめてのんびりと紅葉林の夕暮れをたのしむ。霜を経た楓の葉は、二月春のさかりの花よりも更に紅い。

菅井松雲先生書



今よりは つきて白雪積もるらし 道踏みわけて 誰か訪ふべき (良寛)

これから、続いて白雪が積もるにちがいない。そうすれば誰がこの深い雪を踏みわけて訪ねてくれようか、いやきつと誰も訪ねてはくれないだろう。

明石幸子書



林間暖酒焼紅葉、石上題詩掃青苔（白居易）

林間に紅葉をたいて酒をあたため、青苔をはらい落して石上に詩をつくる。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

孤掌難鳴（水滸伝）

孤掌鳴らし難し

片方の手だけでは鳴らない。相棒がいないと事は成
就しない。

白菊爲霜翻帶紫
蒼苔因雨却成紅

（皮日休）

白菊霜の爲に翻って紫を帯び、
蒼苔雨に因りて却って紅を成す。

菊徑と蒼苔と。

尋陸羽不遇（僧皎然）

陸羽を尋ねて遇わず 僧皎然

移家雖帶郭 野徑入桑麻

家を移して 郭を帯ぶと雖も 野徑 桑麻に入る

近種籬邊菊 秋來未著花

近ごろ籬辺の菊を種えしも 秋來 未だ花を着けず

扣門無犬吠 欲去問西家

門をたけども 犬の吠ゆる無く 去らんと欲して 西家に問う

報道山中出 歸來每日斜

報じて道う 山中より出で 歸り来れば 毎に日斜なりと

わが門の草に残れるよべの雨の露しげくして 富士は初雪（若山 牧水）

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

少年能
幾時

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書

少年能
幾時

少年能
幾時

隸書

明石春浦先生書

少年能
幾時

少年能
幾時

草書

行草書

山中に夜は明け初め、旅人は去って行く 空は高く、ものがなしい秋のけはい
地上の川に映じていた天の川はすでに消え去って かぐわしい草はつめたい露の中に衰えてゆく
いまここに別れて、またも千里のかなたに赴くのだが 若さというものはいつまでも保てるものではない
君の住む剡溪への道がはつきり心に浮ぶ いささか将来の約束をお届けしよう

早行寄「朱放」

戴叔倫

山曉旅人去

天高秋氣悲

明河川上沒

芳草露中衰

此別又千里

少年能幾時

心知剡溪路

聊且寄前期

早行 朱放に寄す

戴叔倫

山曉けて 旅人去り

天高くして 秋氣悲し

明河川上に沒し

芳草露中に衰う

此の別れ 又た千里

少年能幾時ぞ

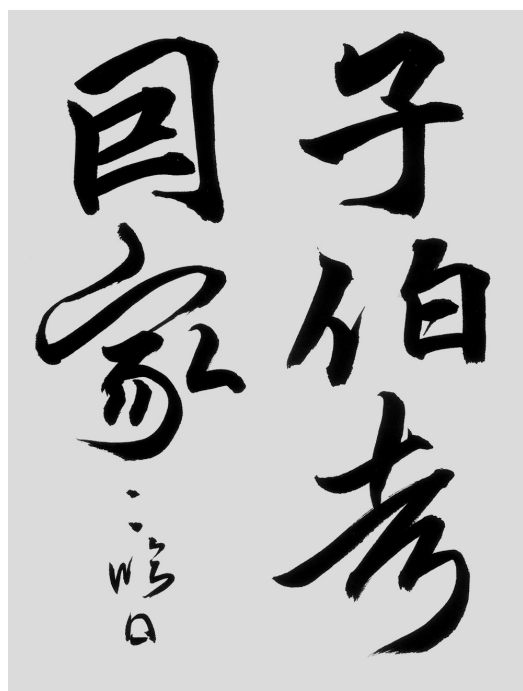
心を知る 剡溪の路

聊且 前期を寄す

(出典)

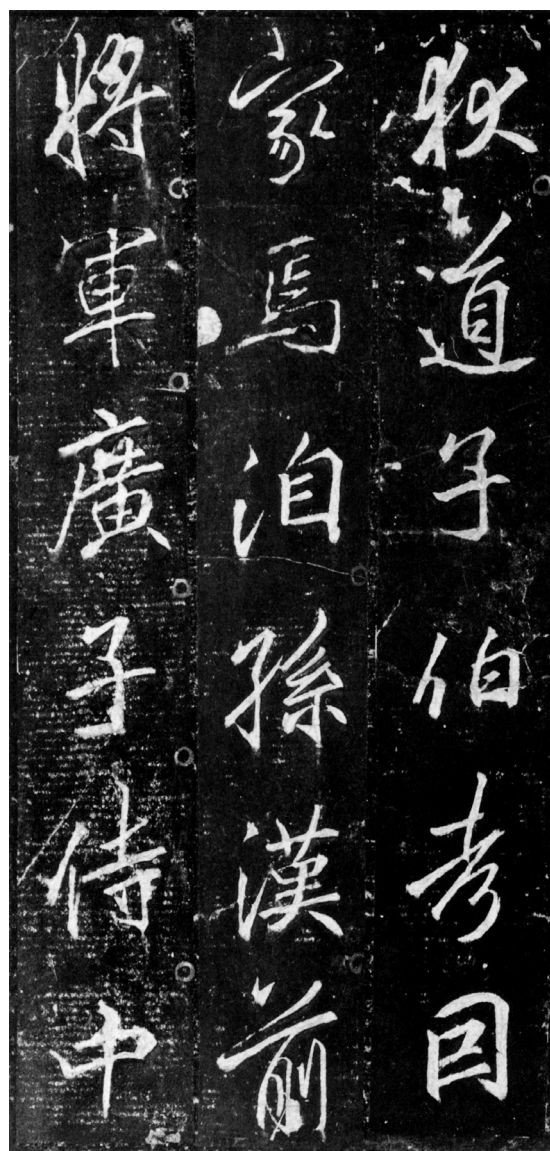
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

11月25日正午必着



子伯考因家

雨宮春聲先生臨書



唐 李邕・李思訓碑

李邕は唐の儀鳳三年（六七八）揚州江都（江蘇省）の生まれで、字は泰和（生まれ、字ともに他説あり）。幼い頃から秀才として知られ、李嶠の推薦で左拾遺となり、玄宗の時に北海太守となったので、李北海と称せられた。

「文選」を注釈した李善の子で、文名高く、その書は唐代における行書の第一人者とも言われている。のちに宰相李林甫に忌まれ、天宝六年（七四七）に杖殺された。

かれの書は碑文が最も有名で、生涯に八百以上の碑文を書いたと伝えられている。はじめ王書を学び、その豪放な性格から剛健で筆勢の雄健さにすぐれた独特な書風を確立したと言われる。

この李思訓碑は、「麓山寺碑」、「法華寺碑」とならんで、彼の最も代表的な碑版のひとつと言われ、骨格鋭く、筆勢強く、明確な結体で、生新の気がみなぎっているとされている。碑文は30行、各行70字で下半分が浸滅していて、ほとんど読めない。右上がりの横画、力強い始筆、転折の鋭さ等を注目したい。

（春濤）

狄道。子伯考因

家焉。泊孫漢前

將軍廣。子侍中

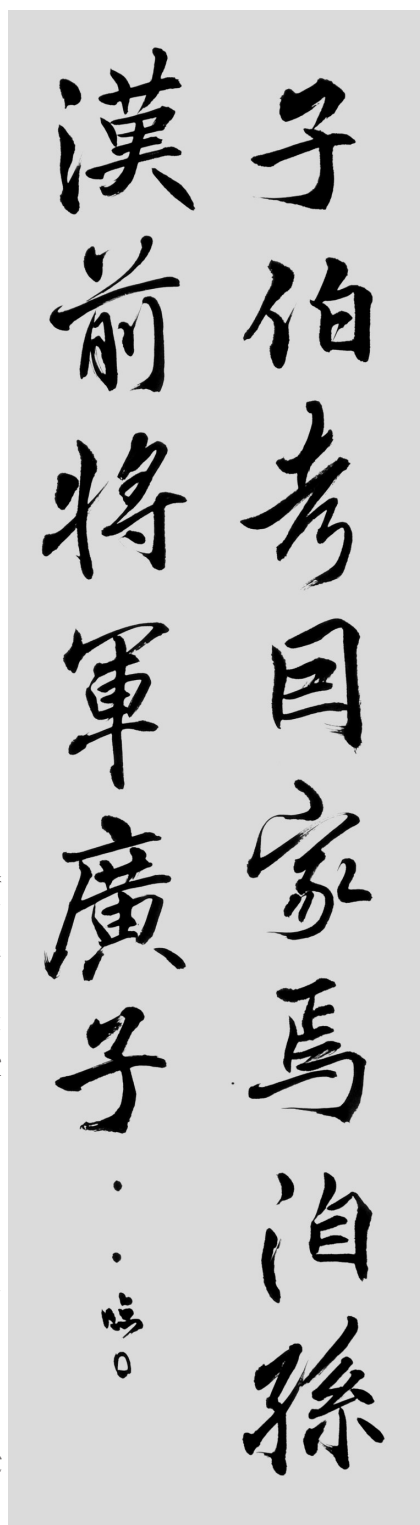
子の伯考 因って焉に家す。

孫の漢の前將軍広、子の侍中（敢）、



《倣書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



11月25日正午必着

教育部毛筆



し
資

げん
源

中学一年

雨宮春聲先生書



そん
尊

けい
敬

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

ぶん
文

しゅう
集

小学五年



横川春川先生書

がっ
楽

き
器

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



藤田幸春先生書

予

定

小学三年



細谷春誠先生書

活

気

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ゆ り 小学一年・幼年



森戸春濤書

あ う 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

子ねこの仕わざと
知って苦笑いした

小学五年

秋も深まり葉は赤
や黄色に色づいた

小学六年

平仮名は漢字から生まれ
た日本だけの文字です

中学

美しい紅葉に飾られ
た山道を散歩します

一般(級位)

夕風に吹かれて
波間に消えぬ
夕風に吹かれて
波間に消えぬ

一般(段位)

夕風ゆふかぜに 門渡るとわたる千鳥 浪間より 見ゆる小嶋の 雲に消えぬ (藤原實定)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ら	こ
ん	う
こ	え
に	ん
	で
の	
る	ぶ

幼 年

ち	サ
ゆ	ー
う	カ
ぶ	ス
ら	の
ん	
こ	空

小学一年

雲	山
が	の
	て
か	っ
か	ぺ
っ	ん
た	に

小学二年

か	古
っ	い
て	ハ
エ	ガ
作	キ
す	を
る	つ

小学三年

で	菜種
天	から
ぶ	と
ら	つ
を	た
あ	油
げ	
る	

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

11月25日正午必着

岩本景楓先生書



こゝろなき
那支身二
みにもあ
八はれは
連盤
しらけり
連介里
しぎたつ
支多沢の
農秋の夕暮
(西行法師)